

広島大学附属中学校

入試科目		算数	国語	理科	社会	総合
試験時間		50分	50分	合わせて50分		-
配点		100点	100点	60点	60点	320点
合格の目安	得点	73点	75点	45点	48点	240点※
	(%)	73.0%	75.0%	75.0%	80.0%	72.2%
昨年度との比較		やや難化	易化	やや難化	横ばい	易化

※当社予想

算 数

1	問 1 計算 1 題	問 2 割合	問 3 折り返し図形の角度	問 4 (1)(2) 表の読み取り(割合)
2	体積・面積・長さ		小問数：3	
3	規則性		小問数：4	
4	水量の変化とグラフ		小問数：3	
5	対称な図形		小問数：5	

広大附属中学校の算数は年によって形式が異なることがありますが、近年は大問 5 題で構成されています。難易度も年度によって上下しています。受験者平均点を見ると、2015 年が平均点 78 点、16 年が 60 点、17 年が 71 点、18 年が 47.3 点でした。19 年の受験者平均は非公表でしたが、合格者平均は 80.7 点でした。このように難易度は一定していません。今年度の問題は、昨年度に比べると難しくなっており、平均点も低いと推察されます。本年の小問数は 20 問で、昨年と同じです。

1 は「計算と一行問題」です。昨年 は 計算 が 2 問 出題 された 問 1 です

が、本年は例年通り 1 題に戻りました。易しい問題なので確実に正答する必要があります。問 2 は割合の問題です。少々ややこしさがありますが広大附属中学校の合格のためには落とせません。問 3 は折り返し図形の角度の問題です。同じ大きさの角度に印をつけていきながら解いていくことに気付けるかなのですが、結構手こずった受験生は多かったと思います。問 4 は表と文章をきちんと読み取れたかがポイントですが、選択肢オ「得点貢献率は必ず 3 未満である」を確信をもって正しいと判断できた受験生は多くなかったはずですが、したがって正答率は低か

ったでしょう。しかしながら①は得点源にしたい大問です。合格のためには5問中4問は正解したいところです。

②は円柱が複数個組み合わせた図形の問題です。問1は円柱の体積を求めるだけの簡単な問題です。問2は円柱7個をまとめてひもで結んだときのひもの長さを求める問題です。広大附属中学校受験生ならば一度は同じような問題を解いたことがあるはずなので問題はなかったでしょう。問3は2つの図形の面積の差を求める問題ですが、円の中心と接点を結んで2つの図形の面積の差が結局、正方形と平行四辺形の差になることにたどり着けたかどうかポイントです。受験生たちの声を聞いても答えがかなり割れていました。

③はカードを並べ続けるいたってシンプルな問題なのですが、1桁の数字は1枚、2桁の数字は2枚、3桁の数字は3枚カードを必要とすることに注意していかなければいけません。問1は1から120までの整数をカードで作る問題で、1桁の数は9個、2桁の数は90個、3桁の数は21個存在することを把握できていたかですが、合格のためには落とせません。問2も問1と同様に考えていけば解ける問題です。4桁の数字に突入していくので、そこでの数え間違いに注意が必要です。問3は2枚おきにカードに色を塗っていく規則性の問題です。(1)は1から99までにカードが何枚使われているかを間違わなければ問題なかったはずです。(2)は1のカードは何枚色を塗られたかを考えるややこしい問題です。全部書き出して答えを出しにいった受験生も多かったのではないのでしょうか。時間配分を考えるとあまり込んでしまうのもいかなものかと思わせる問題です。合格のためには問1と問3(1)の2問は必ず得点しなければいけないでしょう。

④は仕切り板で2つの部分に分けられた直方体の容器に水を入れていく問題です。今年度の広大附属中学校では一番易しい大問でした。問1は基本問題、問3は過去問でも出てくる考え方なので、過去問演習を積んできた受験生には馴染みのある問題です。問2も、設問文で問われている状況がイメージできれば、正答は難しくないでしょう。時間やミ

スを減らすために、何を基準に考えるかがポイントです(水量を求めて解くよりは、水位で考えたほうが早いし、ミスも少なくなります)。

⑤は正方形の辺どうしをつなげて作る図形の問題です。問1は4つの正方形をつなげる図形で、辺の本数が最小ものと最大のものを考える問題です。いろいろ作りながら1つだけ12本のものがあり、他は全部13本からなる図形であることに気づけたかどうかです。この問題の正答率は高かったでしょう。問2は正方形を5つつなげてできる線対称な図形についての問題です。6つの図形が全部かけた受験生は問題なく解けたと思いますが、1つでも描けなかったり、描くのに時間を費やしてしまったりすると苦しくなります。問3は11種類ある立方体の展開図の中から点対称になっているもの、点対称でも線対称でもないものを描く問題ですが、ほとんどの受験生は正方形の展開図は何回も目にしているので問題なかったのではないのでしょうか。この⑤は難易度的には高くありませんが時間がかかってしまった受験生は多かったはずです。この問題は点数の差はもちろんかけてしまった時間の差にもかなりばらつきがあったと予想します。このことから、この大問⑤をどう取り組んだかによって合否が決まってしまった可能性が大いにあったのではないのでしょうか。

冒頭に書きましたとおり、試験問題のレベルは毎年一定ではありません。簡単な問題は当然ながら、差がつく問題もある程度は正解しなければ合格は難しい学校です。広大附属中学校を受験するのであれば、計算力(十分なスピードと正確さ)や解法を含む基本的な算数の知識が必要であることは当然として、時間のかかる問題であっても簡単にあきらめない粘り強さを身につけることが必要です。そのためにも、普段から1つ上のレベルの問題に慣れていきましょう。

国 語

- 一 まはら三桃『疾風的女子マネ！』
- 二 稲垣栄洋『イネという不思議な植物』

(物語文 約 3600 字 小問数 10 問～内記述 4 問)
(説明文 約 2600 字 小問数 12 問～内記述 2 問)

広大附属中の国語問題は、現在広島の中予入試における最高峰と言ってよいだろう。試験時間は 50 分、小問数は 20 問前後しかないが、高いハードルが 3 つある。

1 つめは文章の長さや難解さである。物語文は長く 3500 字前後、説明文は、専門的な素材から難解な文章を選ぶ。そこらへんのティーンズでも読める新書レベルとは訳がちがう。2 つめは問題の手強さ。知識を問うのではなく、よく練られた選択問題と記述問題で文章内容の理解の深さを問う。特に記述問題は国語を得意とする受験生でも苦勞するレベルで作られている。3 つめは国語の試験順。採点に手間取るため多くの学校で国語は一時間目の科目となっている。前述の通り、広大附属中国語は難解で、あまりの手応えの悪さに精神的にダメージを受け、二時間目の算数に影響を与えてしまう。

最難関校受験に挑む緊張感と手強い二題の読解問題、メインディッシュが 3 皿も出てくるフルコースは味わう以前に胸焼け、食もたれをおこしそうになる。さて今年の問題は。

大問一は…「あっ！！」。まはら三桃『疾風的女子マネ！』じゃないか。これってやらせてる！ それも同じ箇所を！ 「ん？」、「えっ？」、「誤爆だ～！」ここでやっと気づいた。確かに同じ箇所で作問し、演習させていたが、「修道中必勝ゼミ第 3 回」の演習問題だった。広大附属中、広島学院中、ND 清心中、広島女学院中の必勝ゼミ受講者は解いてない…。5 年の時に課題図書としてオススメしたので読んでくれていればいいのだが、どうか…。

高校の陸上部がインターハイに出場することになり、部員が熱心に練習に取り組んでいる中、マネージャーの咲良はリレーメンバーの天野が

足を痛めていることに気づく。その結果、天野はリレーの出場を断念、メンバーを入れかえることになるがチームとしてのバランスが崩れ、タイムが伸びないという場面が出題された場面。

問 1 は定番の副詞の挿入問題。「にわかに」という言葉を知っているかどうかのカギになる。問 2 は咲良に右足の故障を言い当てられ、「うるさそうに眉をひそめた」理由を答える選択問題。直後から故障の詳細を説明しているので正解は選びやすい。問 3 は良問。足の故障に気づいたのは「リレー決勝のバトンパスのとき」と答える咲良に「さすが、と言いたいけど甘い」と天野は言い、「異変を感じたのは 100 の決勝の前」と打ち明ける。どのような点が「さすが」か、どのような点が「甘い」かを「咲良が」を主語にして各 25 字以内で説明する記述問題。咲良と天野の会話をていねいに読めば解答はできる。だが、記述慣れしていない受験生は解答に時間がかかり、稚拙な表現に終わる問題だろう。問 4 は「うそぶいた」という言葉の意味がわからなければ文脈で判断する。問 5 天野に代わってリレーメンバーになると告げられた大黒が「目の前で風船でも割れたみたいな顔」をする様子を説明する選択問題も場面からすぐわかるはず。問 6 は故障にだれも気づかなければリレーに出られたかも知れないが、しかたがないと天野と先生が話している場面で「なんか、すみません」と咲良が言う理由を説明する記述問題。天野に良かれと思ってしたことだが、咲良が気づいたばかりにリレーのメンバーを変えざるを得なくなったことに責任を感じ申し訳なく思っているという解答の方向性はわかりやすいだろう。問 7 はリレーは断念したものの個人の短距離レースには出場はするという天野の気持ちを聞いて「涙があふれそうになる」状態になった理由を選ぶ選択問題。「山科に

勝ちたい、勝てなくても一緒に走りたい」という天野の言葉を読み取れば答えられる。問8はA B 2箇所の空所に適当な表現を選んで入れる問題。「言葉を選ぶ」「意を決する」という言葉の意味は知っておきたい。最後の問9、新メンバーでのリレー練習がうまくいかず、「ファイトッ」と「叫んでみたが部員たちに届く前に見えない壁にぶつかって碎けているように感じた」時、咲良が感じたことを説明する記述問題でやや難か。天野が抜けたことでまとまりがなくなり、それぞれが不安やプレッシャーを感じているため、自分の応援もなかなか届かない、というような内容を中心にまとめればいいが、どこまで書けばいいかで悩むかも知れない。

大問二は説明文。附属と言えど難解な説明文だが、今年は比較的読みやすい文章が出題された。近年中学入試最頻出著者である稲垣栄洋の最新刊『イネという不思議な植物』から。ちくまプリマー新書から4月刊行の本書は「絶対出る!」と思い、修道中での第3回修道中模試で出題。だが、またもや「誤爆」。出題箇所は愛光中で出題され、広大附属中の出題箇所とはニアミスで終わった(泣)。

日本とヨーロッパの農業生産を土地柄の違いで実証的に比較し、日本の農業の現在の問題点を考察していく文章。問1は漢字の書き取り、基本的なものばかりなので全問正解が必達。問2の「日本の田んぼのすごさ」を説明した部分をさがす問題も易しい。問3の「うらやむ」を選ぶ挿入問題もできるだろう。問4の接続詞の挿入問題も難しくない。ここまではさっさと片付けたい。問5は大問一の問題3に通底する対比の記述問題。欧米の広く広くと横方向に発達した農業と深く深く縦方向に発達した日本の農業を具体的に説明する問題で、難度も適当で好感が持て

る。でも論理的読解力を持たない受験生は苦勞するだろう。問6は環境の好条件に支えられて生産力が高い日本の農業でありながら、米の消費量が減っている現状に対する筆者の主張を選択する問題。文章と選択肢をていねいに読む力があれば難なく解ける。問7は面白い問題。「世界の人が日本の田んぼを見たらどう思うか」と「飢餓に苦しむ世界の人がこの風景を見たらどう思うか」という筆者の問題意識に対して表現の効果を問う問題。問題レベルとしては易しいが、これは良問だと思う。こういう問題を通して子どもたちの読解力を育てたいと改めて思う。最後の問8は、段落の役割と関係性を問う問題で文章の作りが理解できているかどうか問われる選択問題。これも易しいが授業で使いたいくらい良い問題と言える。

広大附属中の問題は子どもたちの学びを前提とした「読解力を鍛える問題」だと思い知らされる。

今年もていねいに内容を読み取る読解力とポイントを過不足なく記述する表現力が求められた「附属臭」がぷんぷんと漂う問題。記述問題が減り、難度も下がり、全体としては前年と比べ易しくなったが、差はつきやすく、十二歳の読解力を測る良問であることは間違いない。

広大附属中という山は想像以上に高い。第一志望とする受験生は、読むのがイヤになるような難解な文章に触れ、めんどくさいけれども本文内容に照らしてていねいに解答し、条件をコツコツとひとつひとつ確認しながら過不足なくまとめる記述力を磨く、という地道な訓練は欠かせない。頂上はそれを乗り越えた先にある。(kuro)

理 科

- 1 物理分野から、ふり子の運動 に関する問題（小問4）
- 2 化学分野から、ろうそくの燃焼と気体 に関する問題（小問12）
- 3 生物分野から、メダカの飼育 に関する問題（小問6）
- 4 地学分野から、太陽と星の動き に関する問題（小問7）

今年も、物理・化学・生物・地学の4分野から大問1題ずつ、教科書内容を逸脱しない範囲で出題されています。問題数は例年並で（30問程度）、受験理科のレベルからいえば基本、標準問題がほとんどとなっています。同校の特徴の一つとして、字数制限のある記述がありますが、今年に限りその出題はありませんでした。しかし、記述そのものは5問出題されました。ただ、記述といっても知識問題に近いものがほとんどなので、受験生が戸惑うことはなかったと思います。また、図中に描き込む問題を4問含むなど多様な解答形式が目立ちました。いずれにしても、広島で最激戦の中学入試なので、どのような出題があっても対応できる準備をして臨まないと合格点には達しません。

1 ふり子に関する定番の問題です。問1 ふり子の長さが単にひもの長さではなく、おもりの重心までの長さであることは、広大附属を目指す受験生なら知らない人はいないはずです。加えて、図1でそのことが示されているのでよもや間違えることはないと思います。後は、そこに着眼して、題意にそった記述が出来たかどうかです。問3（1）は簡単なグラフの読み取りで、読み取った数値は過去の演習で扱った見覚えのある数値なので安心できたはずです。（2）はグラフの変化（長さは周期の2乗に比例する）を4つの選択肢から探しあてる問題で、小学生には簡単ではなかったと思います。ただ、このような問題をしっかり取り切ることが同校への合格につながるはずです。

2 ろうそくが燃えるときの気体の変化についての問題です。問1 近

年、気体検知管の使い方の問題はよく出題されています。ここでは、ろうそくが燃える前と後での酸素と二酸化炭素の空気中に占めるおおよその割合は知っておかないといけません。それをもとに9個の気体検知管から適切なものを選ぶ問題ですが、細かい目盛りに注意しないといけないのでミスには注意しましょう。問2～問6は何度も練習してきた問題のはずなので全問正解が必要でしょう。

3 メダカの飼育に関する問題です。問1のすべて選びなさいの選択問題は悩んだかもしれませんが、他の問題については定番の内容ばかりなので、ここも全問正解以外は考えられません。

4 棒のつくる影（日影曲線）の動きについての問題です。図1でまさか上が北と決めつけてしまった受験生はいなかったと思いますが…。実際は10時の影の位置と8等分された目盛りを合わせると東西南北が決まります。ここでは、この作業がすべてになり、正しく決まれば、問1～3は正解できます。問4～問6の星座の中の一等星の位置や星座の集まりを図中で見つける問題ですが、図中に一等星が堂々と示してあるので間違えることはないと思います。

問題数、問題レベルからみると、いかにも簡単な入試の様にみえますが、何問かある受験生を悩ますような問題も同校の入試では捨て問にはなりません。むしろ合否を分ける問題になるはずです。これらの問題に対してもしっかり対応できる学力をつけておきましょう。最も注意すべきことは出来る問題を絶対にミスしないことです。

社 会

- 1 《地理》 日本の自然に関する問題(5問)
- 2 《地理》 日本の産業・生活に関する問題(5問)
- 3 《歴史》 古墳・鎌倉・江戸時代に関する問題(8問)
- 4 《歴史》 近代オリンピック(夏季) [19～20世紀] に関する問題(9問)
- 5 《公民》 共生社会に関する問題(3問)
- 6 《公民》 日本国憲法に関する問題(8問)

2020 年度の広大附属中学入試は、問題数は 38 問でした。大問構成が 7 問から 6 問に変更になり、理社合わせて 50 分という試験時間は変更がありませんでした。地歴と公民の問題の出題比率はおおよそ 7 : 3 の割合で出題されています。問題数の内訳は、記号選択(17 問)・語句記述(18 問)・文章記述(3 問)となっています。問題レベルは昨年同様解きやすい問題で、難問と呼べるものはほとんどありませんでした。

1 は日本の自然に関する問題。問 1 は消防機関にかける電話番号を答える問題。問 2 は東京から日本各地にある世界自然遺産とのおおよその距離を選択する問題。また気温と降水量の表から気候を答える問題も出題されました。いずれも日本の国土に関する知識を正確に理解していれば容易に解ける問題でした。

2 は日本の産業・生活に関する問題。問 1 は「適地適作」を答える問題。受験生の中には、問題文をきちんと読まずに「品種改良」と安易に答えた人もいたのではないのでしょうか。問 3 は製鉄所の立地条件を字数指定で理由を答えさせる記述問題。問 4 は情報通信機器の使った取り組みが社会に広まった理由についての選択問題。問 5 はハンバーガーセットから原材料の輸入国の組み合わせを選択する問題が出題されました。

3 は古墳・鎌倉・江戸時代に関する問題。問 4 の「武士のやかた」の図から守りを強めるための設備を 1 つ挙げる問題、問 8 の百姓一揆が特に発生した背景を答える問題以外は、基本的な正誤問題や、基本語句の語句記述でした。広大附属中学入試では、写真・イラスト図・文書などの歴史資料を使った出題があります。そのため教科書や資料集などは一

通り目を通しておくことをお勧めします。問 4 の「物見やぐら」に関して教科書には説明がされています。

4 は近代オリンピック(夏季) [19～20 世紀] に関する問題。問 1 は 19 世紀に日本で起こった出来事で正しいものをすべて選ぶ記号選択問題。問 2 はアメリカに関する出来事についての正誤問題。問 3～5 は基本語句の確認でした。問 6 の 1964 年東京五輪にて東京～大阪間に開通した交通機関名を具体的に答える問題。問 7 は昭和最初と平成最初のオリンピック開催地を、表を参考に書く問題でしたが、これは受験生には難しかったと思います。問 8 の大会が中止になった理由を具体的に説明する問題のように、暗記事項ではなく、きちんと内容を理解しているか「具体的に」説明する問題が増えました。

5 は共生社会に関する問題。朝日新聞の東京パラリンピックの新聞記事をもとに、「バリアフリー」や「ユニバーサルデザイン」を答える問題が出題されました。2020 年は東京オリンピックが開催されることもあり、それに絡めての出題となりました。

6 は日本国憲法に関する問題。日本国憲法の条文と関する文章の穴埋め問題。国事行為にあてはまらないものを選択する問題や大日本帝国憲法の国民の権利の制限についてなど、答えやすい出題でした。

今年の広大附属中学入試合格のカギは、次の 2 点でした。

まず、教科書レベルの基本語句定着の徹底です。そして、日々の学習の中で「なぜ？」を意識して学習を進めることです。自身から出た疑問を解決する習慣を持つと、初見の問題に臆することがなくなります。

